

日本体力医学会学会賞の受賞論文

学会賞（体力科学）：

地域在住高齢者における身体機能評価を用いた認知機能低下者抽出方法の検討

木室 ゆかり¹，古瀬 裕次郎¹，畑本 陽一²，池永 昌弘^{2,3}，田中 宏暁^{2,3}，檜垣 靖樹^{2,3}

¹福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科，²福岡大学基盤研究機関身体活動研究所，
³福岡大学スポーツ科学部

奨励賞：

日本人小・中学生における体力および肥満度と血中脂質性状との関連性

城所 哲宏^{1,2}，枝元 香菜子³，柳岡 拓磨^{4,5}，柏原 杏子⁴，田中 英登⁶，宮下 政司⁷

¹東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科，²順天堂大学スポーツ健康医科学研究科，
³日白大学人間学部，⁴早稲田大学大学院スポーツ科学研究科，⁵日本学術振興会，
⁶横浜国立大学教育人間科学部，⁷早稲田大学スポーツ科学学術院

経時的CT撮影による肝脂肪蓄積の評価と自発的運動の効果

吉村 咲紀¹，富賀 裕貴¹，中島 志穂子²，伊藤 愛¹，川上 翔太郎¹，
田中 宏暁^{2,3}，上原 吉就^{2,3}，檜垣 靖樹^{2,3}

¹福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科，²福岡大学基盤研究機関身体活動研究所，
³福岡大学スポーツ科学部

アイシング処置がラット損傷筋の回復過程に及ぼす影響

池崎 和海¹，芝口 翼²，杉浦 崇夫³，宮田 浩文¹

¹山口大学大学院創成科学研究科生物機能科学，²金沢大学国際基幹教育院，
³山口大学教育学部スポーツ健康科学

平成30年度学会賞選考を振り返って

学会賞選考委員長 前田 清司

学会賞を受賞されました先生方におかれましては、誠におめでとうございます。さて、日本体力医学会学会賞は、昨年度に「体力科学」および「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMS)」に公表された論文の中から、学会賞と奨励賞に相応しい論文を選定しております。学会賞は「体力科学」と「JPFMS」に公表された学会員が筆頭著者の論文からそれぞれ一編、奨励賞は両誌に公表された論文の中から若手学会員が筆頭著者の論文を一編選定しております。今回は、選考委員の先生方から高い評価を受けた一編が学会賞、三編が奨励賞に選出されました。奨励賞は、一編に絞ることができず、いずれも同等に高評価を得た三編を選定することになりました。

日本体力医学会は、日本国内外における体力ならびにスポーツ医科学の研究の進歩、発展を促進させる使命を担っています。これを実現する上で、学会機関誌である「体力科学」と「JPFMS」に掲載される学術論文は大変重要になります。学会員の先生方におかれましては、先生方の素晴らしい研究結果を「体力科学」あるいは「JPFMS」に積極的に投稿していただき、体力およびスポーツ医科学の研究の推進・発展に寄与していただきますようお願いいたします。そして、学会員の先生方にとって、学会賞の受賞が憧れとなり続けることを祈念いたします。

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2018年5月）議事録

日 時：2018年5月18日(金) 午後5時30分～7時30分

場 所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

西平賀昭, 永富良一各副理事長,

碓井外幸常務理事,

宇高 潤, 大野 誠, 勝村俊仁, 川原 貴,

栗原 敏, 後藤勝正, 坂本静男, 須田和裕,

須永美歌子, 武政 徹, 竹森 重, 田中喜代次,

田畑 泉, 成田和穂, 前田清司, 宮川俊平,

宮地元彦, 和気秀文各理事,

清田 寛, 小林康孝, 定本朋子各監事,

山次俊介第73回大会実行委員長

欠席者：小野寺昇, 下光輝一, 浜岡隆文各理事,

井上 茂監事, 戎 利光第73回大会長,

徳田修司第75回大会長候補

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会開催中に前回の理事会議事録の内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

2. 平成30年度決算見込みについて（宮川財務委員長）

資料に基づき、平成30年度決算見込みについて報告があり、特に大きな問題もなく基本的には前年度と大きく変わらないとの説明がなされた。

3. 平成31年度予算案について（宮川財務委員長）

資料に基づき、平成31年度予算案について報告があった。各地方会においてマイナスの予算となっているが、これは各地方会での補助金で内部取引消去のことであり、全体は前年度と大きな変わりはないと説明がなされた。

4. 平成31年度事業計画について（鈴木理事長）

資料に基づき、平成31年度事業計画案についての報告があった。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

5. 役員任期について（鈴木理事長）

鈴木理事長より、次のような説明がなされた。

平成26年4月1日付けで、任意学術団体日本体力医学会が法人化され、一般社団法人（一社）日本体力医学会となった。法人化に伴う定款改定によって、定款第25条役員任期の項、「理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続4期までとする。監事の任期は4年以内とする。再任は妨げないが、連続3期までとする。」に改定された。選挙で選出された現在の理事24名のうち20名が法人化スタート以来の理事であり、現在3期目である。来年役員選挙があり、20名の理事の多くが選出された場合、4期目となり、それ以降20名の現理事は

一斉に被選挙権を失うことになる。そうすると、例えば、編集委員長、副委員長、30数名に及ぶ編集委員も任期満了となり大半が交代せざるを得なくなり、円滑な編集業務の遂行は困難となる。他の各種委員会も同様となる。この件について、司法書士に相談した処、「定款を改定するしかありませんね」という回答であった旨、報告された。この件に関連して、川原理事より、「理事の年齢制限はないのか？」との質問があった。理事長より、「評議員も理事も年齢制限はない」旨、回答された。また、田中理事より、「結論として、定款変更しかありませんね」との意見が述べられた。

「役員任期について」審議した結果、現行定款を「理事の任期2年以内とする。なお、再任は妨げない。監事の任期は4年以内とする。再任は妨げない。」に改定することが理事会に於いて承認された。9月の社員総会に提案し、承認を得ることになった。尚、司法書士より定款改定の手続きの指導を受けることになった。

6. 学会賞について（前田学会賞選考委員長）

資料に基づき、審査結果が報告された。5月11日に開催された委員会において、学会賞（体力科学）1件、学会賞（JPFMSM）1件、奨励賞は同等の高評価を得た3件を選考したことが報告され、承認された。なお、奨励賞の副賞として20万円を均等割りにしてはどうかとの提案がなされたが、審議の結果、今回の奨励賞の副賞は1件5万円に決定された。

【学会賞（体力科学）】

◎「地域在住高齢者における身体機能評価を用いた認知機能低下者抽出方法の検討」（66巻2号）

木室ゆかり, 古瀬裕次郎, 畑本陽一, 池永昌弘, 田中宏暁, 檜垣靖樹

【学会賞（JPFMSM）】

◎「DRD2/ANKKI gene polymorphism rs1800497 is associated with exercise habit in the period from childhood to adolescence in Japanese」（6巻2号）

Haruka Murakami, Noriyuki Fuku, Ryoko Kawakami, Yuko Gando, Motoyuki Iemitsu, Kiyoshi Sanada and Motohiko Miyachi

【奨励賞】

◎「日本人小・中学生における体力および肥満度と血中脂質性状との関連性」（体力科学66巻4号）

城所哲宏, 枝元香菜子, 柳岡拓磨, 柏原杏子, 田中英登, 宮下政司

◎「経時的CT撮影による肝脂肪蓄積の評価と自発的運動の効果」（体力科学66巻4号）

吉村咲紀, 富賀裕貴, 中島志穂子, 伊藤 愛, 川上翔太郎, 田中宏暁, 上原吉就, 檜垣靖樹

◎「アイシング処置がラット損傷筋の回復過程に及ぼす影響」（体力科学66巻5号）

池崎和海, 芝口 翼, 杉浦崇夫, 宮田浩文

7. シニア会員、学生会員について（武政総務委員長）

資料に基づき、会費収入を安定的に確保するための方策が報告され、学生会員の新設は学会の経営状態が良くなった際に再度検討することとし、シニア会員は以下の内容で新設してはどうかとの提案がなされ、審議の結果、承認された。

- 1) シニア会員としての条件を満たす場合でも、本人が正会員の継続を望む場合は適用外とする。
- 2) シニア会員は名誉会員に準ずる会員とする。
- 3) シニア会員としての条件
 - (1) 会員歴20年以上である。
 - (2) シニア会員申し込み時の年齢が満70歳以上である。
 - (3) 評議員としての権限（本学会の役員等になるための被選挙権、選挙権）を喪失する。
 - (4) 本学会が発行する機関誌等の受け取りに関しては正会員・名誉会員と同様とする。
 - (5) シニア会員の年会費を5,000円と定める。
 - (6) 学会年次大会参加費等の設定は、大会長に委ねる。
 - (7) 学会発表と論文投稿は正会員・名誉会員と同様とする。

8. 鹿児島大会長候補者について（武政総務委員長）

資料に基づき、鹿児島大学名誉教授の徳田修司評議員が第75回（鹿児島）大会長に推薦され、審議の結果、承認された。

9. 地方会のあり方について

（碓井全国地方会実行委員会業務執行役）

資料に基づき、各地方会における本学会の法人化に伴う規制に対し、地方会のあり方および運営方針を統一すべく以下の問題に対する解決のための草案が報告され、審議の結果、承認された。また、全国地方会実行委員会の新設の背景について、大会運営のための会員や評議員の少ないことによる支援不足を解消するため、県を越えた周辺地域に在住する会員や評議員が集まって地方会を新設していくことを目的としている旨報告がなされた。現況では、新設されたばかりで委員が全て決まらなかったことや、他の本学会委員会との意見交換も十分でなかったこと、さらに各地方会代表および会員への情報伝達遅延等の理由により、全国地方会実行委員会による諸事案解決が困難であったことから、総務委員会や編集委員会等の意見を聴取することにより当面の事案に対処することにし、今日に至った旨、説明がなされた。

- 1) 地方会抄録掲載料の統一および地方会大会参加費
 - (1) 地方会（大会）での発表者および共同演者は、次の①～③に区別される。
 - ①（一社）日本体力医学会会員
 - ②非会員（学部生、大学院生を含む）
 - ③会員ではない特別講演招聘者
 ①と③が筆頭者として発表した場合、従来通り発表抄録を提出し、「体力科学」に掲載される。この場合、掲載料等は一切徴収しない。
 ②が筆頭者として発表する場合は3,000円を徴収する。

(2) 地方会大会参加費

地方会大会参加費を徴収するか否かは、会員、非会員、その他を問わず、地方会大会長（当番幹事）に委ねる。尚、参加費を徴収する場合、非会員の筆頭発表者は抄録掲載料3,000円を納入しなければならないことを考慮して、参加費を設定してもらおう。

2) 抄録の掲載方法

「体力科学」の投稿規定を「D. 地方会（大会）の抄録原稿は、一編900字以内で表題、著者名、所属、本文を和文で記す。＊提出期限に遅れた場合、本誌に掲載されない。」で統一する。

10. FAOPS2019使途限定寄付金について（鈴木理事長）

公益財団法人 中富健康科学振興財団から栗原理事が表彰され、栗原理事より報奨金のうち100万円を本学会に寄付したいとの申し出があり、使途としてはFAOPS2019に関わるものに限定して欲しいとの依頼があったことが報告された。

11. その他（鈴木理事長）

会員数が少ない地方都市で学会年次大会を開催する際、支援が得られ難いため必ずしも国民体育大会開催県で開催する必要はないのではないか、という意見が挙がっていることに因み、既に体力科学に掲載されている“日本体力医学の源流と変遷”および“日本体力医学会と「体力科学」誌の生い立ちとあゆみ”の別刷が配布され、国民体育大会開催県で体力医学会を開催することになった経緯や意義について説明がなされた。当初は、日本体力医学会開催に際して、国民体育大会開催県から様々な支援や補助金が出ていたが、現在は殆ど無くなってしまった。そこで、今後体力医学会年次大会を開催する方は、国民体育大会開催団体に今日配布した別刷りを持参し、国民体育大会と日本体力医学会との関係をご説明頂き、体力医学会年次大会では大会開催地の市民に対して、健康、運動に関する公開講座等を開き、健康づくりに貢献できるようなイベントも加えて頂き、国民体育大会開催団体からの支援を頂くよう努めて頂きたい旨、理事長よりのお願いがあった。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会（武政委員長）

第74回茨城大会後に第76回三重大会長の推薦を計画している旨、報告された。また、学会総務に関わる規則の見直し（シニア会員の設定）を行う旨、報告された。

2) 編集委員会（田中委員長、後藤副委員長）

資料に基づき、以下の内容が報告された。

- (1) 「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況について
- (2) 学会ホームページの「プライバシーポリシーページ」作成について、Editorial Manager（オンライン投稿審査システム）の仕様変更によるウェブサイト上の「プライバシーポリシーページ」

URLの提出に伴い、個人情報保護法の観点からも早急に本学会の英語、日本語両方のプライバシーポリシーを作る必要があり、その作業を進めている旨、報告された。

- (3) 学会誌投稿におけるCOIマネジメントについて、現在、本学会の学会誌のCOIマネジメントに関する事項が投稿規定に記載されていないため、今後の対応について以下の案が提案され、審議の結果、承認された。

(案) 本学会誌では、COIへの記載を求めることとする。記載を求める事項としては以下の通り。

- ①当該研究者の所属企業名(部署名, 職名)
 - ②当該企業からの出資(出資がある場合)
 - ③当該研究への関係企業の関与について(研究結果の学会発表や論文発表の決定に関して関係企業が影響力の行使を可能とする契約の有無)
 - ④当該研究結果に影響を与えうる企業からの労務提供としての受け入れになっていないか
 - ⑤その他、利益相反として申告すべきこととし記載箇所は参考文献の前とする。また、項目が網羅されていれば簡潔にまとめた記載も可とする。
- 補足) 著者の貢献(Author Contribution)を投稿規定に追加する。

- (4) 「ACSM運動処方指針(原著第10版)」の翻訳本の出版について、ほぼ完成しており、今後校正、出版する旨が報告された。

- (5) 学術刊行物の編集について、進捗状況と今後の予定が報告された。また、学術刊行物のタイトル、医学用語の表現の統一、学術刊行物の各章について割り当てた編集担当(案)の先生に協力をお願いした。編集担当については本学会会員に限らない旨が提案され、審議の結果、承認された。

3) 学術委員会

- (1) スポーツ医学研修会実行委員会(碓井学術委員長)

第29回日本体力医学会スポーツ医学研修会は日本体育大学で実施される旨、報告された。

- (2) プロジェクト研究委員会(須田委員長)

第73回福井大会において、研究成果を報告する旨、報告された。

来年度(昨年度終了研究: 1件, 未了研究: 1件)

- (3) 称号委員会(碓井学術委員長)

日本体力医学会健康科学アドバイザー®の審査をスポーツ医学研修会後の申請により実施する旨、報告された。

- (4) ガイドライン検討委員会(勝村委員長)

「少子高齢化」が進行しているわが国における、「健康寿命の延伸」を目指した活動なども視野に入れたガイドラインの作成などを、他の学術団体との協力も含めて進め、また、東京オリンピック2020を視野に入れた、競技スポーツにおける安全対策についても検討していく旨、報告された。

- (5) 渉外委員会(永富委員長)

資料に基づき、以下の内容が報告された。

- (1) 国際交流事業

- ①第72回日本体力医学会大会(愛媛)における国

際交流事業について

- ②ECSS 2018 Dublin 2018.7.4-7について

- ③国際学術交流奨励賞について、受賞が一部に偏っているとの意見があることから審査について公平に行う事とした。

- (2) 国内関連学術団体との交流・連携

- ①脳心血管病予防に関する包括的管理チャートの改訂について

- ②日本生理学会との連携について

- ③日本抗加齢医学会との連携について

- (3) 日本体力医学会の活動の国内外に対する見える化

広報委員会との連携について、現在は具体的なアクションにつながっていない旨、報告された。

- 6) FAOPS2019運営委員会(和気委員長)

資料に基づき、以下の内容が報告された。

- ①2018年3月28日(水)に高松市(サンポートホール高松)に於いてFAOPS2019拡大組織委員会が開催され、参加登録、一般演題登録、トラベルグラント申請の受付期間ならびに参加登録費について概ね以下の案で計画している旨、報告された。なお、一部継続審議中である旨、追加報告された。

- 参加登録期間および登録費

8月1日-10月31日 Early 25,000円

(大学院生 15,000円, 学部学生 10,000円)

11月1日-12月20日 Regular 30,000円

(大学院生 20,000円, 学部学生 10,000円)

12月21日-2月28日 Late 35,000円

(大学院生 25,000円, 学部学生 10,000円)

当日参加費 40,000円

(大学院生 30,000円, 学部学生 15,000円)

- 一般演題登録期間

8月1日-10月2日

- 外国人来日トラベルグラント申請期間

8月1日-10月7日

- ②一般演題における、本学会に関連した研究分野カテゴリーとしてExerciseを追加し、1. Molecular & integrative physiology of exercise, 2. The physiological bases of exercise for health, 3. Exercise; othersの3つに細分化することとなった旨、報告された。

- ③FAOPS2019において平昌五輪金メダリストの小平奈緒選手が講演すること、日本生理学会と本学会の共同主催で開催準備を進めている旨、報告された。

- ④公募シンポジウム(5月7日締め切り)に本学会に関連した研究テーマの申請が1件あった。採択された場合は開催に向けた支援を行う旨、報告された。

- ⑤軽食(ランチョンではなく)を配る共催セミナーについて現在検討中である。また引き続き、協賛企業を募集している旨、報告された。

- 7) 利益相反委員会(宮地委員長)

資料に基づき、以下の内容が報告された。

- (1) 体力科学, JPFSMの投稿規定におけるCOI開示項目を編集委員会と協力して検討していく旨、

報告された。

- (2) 日本体力医学会大会におけるCOI開示の方法を検討していく旨、報告された。
- (3) 策定から4年が経過した「利益相反(COI)に関する運用指針」の加筆、修正を検討していく旨、報告された。

上記計画を遂行するため、メール審議に加え、会議を年度内に最低1回開催する旨、報告された。

また、第4回研究倫理教育研修会に参加し、以下の報告がなされた。

研究に関しては今まで倫理指針に基づいて実施されていたが、今回、臨床研究法という法律が制定され、研究のやり方に対する規制が徐々に厳しくなりつつある現状にある。臨床研究法がカバーする研究の領域は、医学的に新しい薬や医療機器等を試す治験に近いような研究が対象となる旨、報告がなされた。今後の動向を倫理委員会と協議しながら見ていく必要がある旨、報告がなされた。

また、COI管理について、COIを開示することは研究者や本学会自体を守るという趣旨である旨、報告がなされた。仮に企業からお金をもらって研究をやることは悪いことでなく、そのことによって生じうるデータのねつ造や改ざん等は可否に関わるが、お金を受け取って研究しているということを明らかにしていくことが重要である旨、報告がなされた。また、年々、利益相反の考え方が新しくなっている状況であるので情報共有を徹底していく旨、報告された。

- 8) 全国地方会実行委員会(竹森委員長)
- (1) 学会本部と地方会間の連絡と対応すべき問題の吸い上げについて
- (2) 会員低密度地域(特に地方会空白地域)の体

力医科学活動(大会開催を含む)支援の調整をしていく旨、報告された。

2. 第73回(福井)大会の進捗状況 (山次第73回大会実行委員長)

配布資料に基づき、大会の特別講演等準備状況について報告された。演題登録者の年会費未納の対応について提案された。審議の結果、5月末に演題登録を締め切り、6月1週目で会費納入状況を本部事務局で確認し、未納者へ年会費振込依頼の連絡をする形で進めることとなった。また、要旨について未納者も抄録掲載することとするが、会費の納入が確認できなかった場合には、抄録掲載を取り消すこととなった。

会期：2018年9月7日(金)～9日(日)

会場：AOSSA, ハピリン

テーマ：しあわせ元気なふくいでつむぐ体力医学
～QOL維持・向上の運動効果～

3. 第74回(茨城)大会の進捗状況 (前田第74回大会長代理)

配布資料に基づき、大会の準備状況について報告された。

会期：2019年9月19日(木)～21日(土)

会場：つくば国際会議場

テーマ：元気な人と社会をはぐくむスポーツ医科学の挑戦

4. 第75回(鹿児島)大会の進捗状況(武政総務委員長)

大会の準備状況等について報告された。

会期：2020年9月頃

会場：鹿児島大学

一般社団法人日本体力医学会定例理事会(2018年8月)議事録

日時：2018年8月24日(金)午後5時30分～7時30分

場所：八重洲倶楽部 第2・3会議室

議長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、永富良一副理事長、
碓井外幸常務理事、宇高潤、大野誠、
勝村俊仁、川原貴、栗原敏、後藤勝正、
下光輝一、須永美歌子、竹森重、成田和穂、
浜岡隆文、宮地元彦、和気秀文各理事、
井上茂、清田寛、小林康孝各監事、
徳田修司第75回大会会長候補、
中里浩一スポーツ医学研修会実行委員長

欠席者：西平賀昭副理事長、小野寺昇、坂本静男、
須田和裕、武政徹、田中喜代次、田畑泉、
前田清司、宮川俊平各理事、定本朋子監事、
戎利光第73回大会長

【審議事項】

1. 前回議事録の承認(鈴木理事長)
理事会開催中に前回の理事会議事録の内容確認を行

い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

2. 平成30年度庶務報告に関する件について (鈴木理事長)

資料に基づき、平成30年度庶務について報告がなされた。

2018年7月31日現在、正会員数は4176名(昨年に比べ82名減少)、評議員は546名(内医師88名、非医師458名)、新入会員297名、退会者395名、98名減少(内自然退会231名)であることが報告された。また、2年以上会費未納者リストが提示され、2年以上会費未納者については第73回福井大会を期限として、自然退会とすることが承認された。リストに含まれている会員で声掛けできる場合は、会費納入の催促をしてほしいとの依頼がなされた。

3. 平成30年度会計報告(決算)に関する件について (鈴木理事長)

資料に基づき、平成30年度決算について報告がなされた。

収入の部 会費収入が41,020,672円（内正会員39,010,000円）。会員数が減少しているにもかかわらず、昨年より正会員収入が560,000円増加している理由は、例年行っていなかった学会大会の筆頭演者に学会本部事務局から会費納入の催促をしたためであると説明された。称号費収入は予算240,000円から決算額500,000円に増加しており、日本体力医学会健康科学アドバイザー更新のための収入が増加している。論文掲載料等収入は予算から2倍以上の2,695,536円となり、これは掲載論文数の増加が主な理由である。しかし、これに付随して印刷費も増加している。雑収入は予算の100,000円から決算額は364,641円で、ハースト婦人画報社の商用利用による二次使用料の216,000円が計上されている為であることが加えられた。収入合計は84,879,239円となった。昨年度予算の収入合計89,013,000円より4,133,761円減少した。

支出の部 学会誌発行費は22,800,731円となり昨年度予算27,000,000円と比べ、紙の質を落とす等経費削減策をとったことで節約できた。学術活動費が予算2,800,000円から4,420,073円に増加している理由は、研修会運営費において学会支援機構の平成29年度業務委託費の請求漏れが平成30年度決算に含まれており、今回2年度分の請求となったこと、今年からスポーツ医学研修会の会場が東京慈恵会医科大学から日本体育大学に変わったことによる備品購入等によるものである。支出合計は85,633,362円となった。当年度決算収支差額は-754,123円であり、平成29年度収支差額-1,348,724円の約半額に抑えられた。平成30年度予算から別途積立金取崩収入を組み込まずに、平成30年度決算収支差額を-754,123円に抑えられたのは種々の支出を節約した結果であることが付け加えられた。

本決算については公認会計士のチェックと監事の監査が行われた事が併せて報告された。

4. 平成30年度事業報告に関する件について (鈴木理事長)

資料に基づき、平成30年度事業報告について報告された。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

5. 平成31年度会計報告（予算）に関する件について (鈴木理事長)

資料に基づき、平成31年度予算について報告がなされた。

収入の部 会費収入は39,255,000円となっている。この内、まだ社員総会の承認を得ていないシ

ニア会員について現在の正会員の中から70歳以上、会員歴20年以上を満了す正会員を抽出したところ115名いた。選挙積立金取崩収入1,500,000円となっている。来年選挙があるため計上しているものである。来年は選挙制度を変え、選挙管理委員の立ち合いを2回で終わらせられるように案を作っているため、節約ができる見込みである。収入合計は79,154,000円となった。

支出の部 大会補助金について、来年の茨城大会まで3,000,000円支給するが、再来年の鹿児島大会からは2,000,000円に減額となる。研修会運営費は会場が東京慈恵会医科大学から日本体育大学に変わったことを考慮して、2,500,000円と多めに計上している。通信費は1,515,000円と多くなっているが、これは定款改定に伴う、社員総会の委任状往復葉書の通信費を含んでいるためである。弁護士相談費は調査委員会での相談料を計上したものである。当年度収支差額は-385,852円となり、少しずつ赤字は改善している。支出合計は79,539,852円となった。

6. 評議員推薦に関する件（大野評議員選考委員長）

資料に基づき、評議員選考委員会において申請者17人に対しての審査を行い、1名の候補者（研究業績の記載方法に不備あり）を除いた候補者16名が評議員選考条件を満たした旨の報告があり、2018年度評議員候補者として16名（内、女性5名）を評議員に推薦することが承認された。

7. 日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者について（碓井称号委員長）

資料に基づき、日本体力医学会健康科学アドバイザー継続申請者について報告がなされた。日本体力医学会健康科学アドバイザー®継続申請者28名の氏名リストが掲示され、承認された（内、終身称号者は5名）。

8. 第29回スポーツ医学研修会修了試験結果について (碓井称号委員長)

資料に基づき、第29回スポーツ医学研修会修了試験結果について報告がなされた。

研修会を受講した参加者20名が8月5日に修了試験（試験問題50問）を受け、全員が合格した旨と試験の概要について報告がなされ、承認された。また、スポーツ医学研修会は会員、非会員を問わず参加でき、非会員で試験を受け合格した者には日本体力医学会健康科学アドバイザーを授与することができることを説明し、会員になることを薦めた旨説明された。

9. 診療放射線技師法違反容疑に関する調査委員会報告 (成田倫理委員長)とその対応(鈴木理事長)について

資料に基づき、診療放射線技師法違反容疑に関する調査委員会の詳細な報告がなされた。

最初に、当該事件に関わった研究グループの研究が本年度の学会賞（JPFMSM）に採択された件について審

議された。鈴木理事長より「学会賞取り下げ」の方向でメール理事会審議を行って来たが、「取り下げ反対」の意見があったため、「保留」扱いとされてきたが、今日の理事会で改めて事件の概要が説明され、「取り下げ」に決定した。

次いで、宮地理事および当該事件に関わった本学会会員への対応について、調査委員会の結果に基づいて審議された。調査委員会としては、宮地理事が本学会に提出した「利益相反委員長の進退伺い」および「理事の辞任届」を受理し、両職の辞任をもって本事件に対する本学会の処分とすることが相当であると報告された。加えて、8月2日に行われた宮地理事への面談後、本調査委員会は、宮地理事より、編集委員会委員及びガイドライン委員会委員についても、それぞれの委員長に進退伺いを提出する旨、連絡を受けたことが報告された。以上の調査委員会報告を参考に、「利益相反委員会委員長」および「理事」の辞任を受理することに決定した。また、利益相反委員会委員長の代行として、利益相反委員会執行役員である永富理事が務めることになった。さらに、宮地理事の補充は行わないことに決定した。本事件には数名の体力医学会会員（評議員）が関わっていたことが明らかではあるが、所属先である健栄研では匿名で報告していることに因み、本学会としてはこれらの会員に対しては関与しないことに決定した。

この件に因んで、鈴木理事長より、今後、この種の事件や論文の盗用、データ捏造・改竄等の事件が起こることも想定されるので、「罰則規定制定委員会」を立ち上げる必要性が示唆された。

10. 定款変更案について（鈴木理事長）

資料に基づき、定款変更案について報告がなされた。

- シニア会員の新設について、総務委員会より、以下の申請要件を満たす会員をシニア会員とする旨、これに付随して、定款第3章（会員）第7条（法人の構成員）、25条（役員等の任期）と定款細則第1章（通則）第1、第2章（会員）2、3条、第4章（理事候補、評議員会長候補及び監事候補の選出等）5条について下線を追記する旨提案され、審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

シニア会員申請要件

- シニア会員申し込み時の年齢が満70歳以上である。
- 体力医学会正会員歴20年以上である。

シニア会員の付帯条項

- シニア会員としての条件を満たす場合でも、本人が正会員の継続を望む場合は適用外とする。
- 会費年額を5,000円とする。
- 評議員としての権限（体力医学会の役員等になるための被選挙権、選挙権）を喪失する。
- 体力医学会が発行する機関誌等の受け取りに関しては正会員・名誉会員と同様とする。
- 学会年次大会参加費等は、大会長に委ねる。

シニア会員制度は2018年8月1日より施行するものとする。

第3章 会員

（法人の構成員）

第7条 この法人の会員は、次の4種とする。

- 正会員 体力医学に関する学識経験を有し、この法人の目的に賛同して入会した個人
- 名誉会員 この法人の発展に関して学術上の功績が特に著名な者で、理事会が推薦し社員総会で承認された個人
- シニア会員 名誉会員に準ずる会員で、別に定める要件を満たした会員からの申請により理事会で承認された個人
- 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した団体

第5章 役員等

（役員等の任期）

第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げない。

2. 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げない。

第1条 一般社団法人日本体力医学会定款第45条に基づき、会員、役員及び評議員の選出、委員会、学術集会等に関する諸規定を設ける。

第2章 会員

第2条 この法人の会費は、次のとおりとする。

- 正会員 年額10,000円
- シニア会員 年額5,000円
- 賛助会員 年額1口以上（1口50,000円）
2. 会費は年度末までにそれぞれ納入しなければならない。
3. 正会員、シニア会員ならびに名誉会員は、学術講演会及び機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌等の頒布を受けるものとする。
4. 賛助会員は、機関誌の頒布を受けるものとする。

第3条 シニア会員の認定は、本人の申請により理事会で行う。

2. シニア会員の認定を受ける正会員は、次のいずれも満たす者とする。

- (1) シニア会員を申し込むときの年齢が満70歳以上であること。
- (2) 日本体力医学会の正会員歴20年以上であること。
3. シニア会員の認定を受けた者は、評議員の資格を喪失する。

第4章 理事候補、評議員会長候補及び監事候補の選出等

第5条 理事候補者、評議員会長候補者及び監事候補者は、別に定める「選挙管理規程」に従い、4年毎に評議員の選挙によって選出する。

2. 理事については、定款の規定により任期満了となる選任2年後の社員総会において、理事

再任の承認を得ることにより、在任期間を4年とする。

- 2) 本学会定款について、総務委員会より、役員の出選に関する規程について以下のように追記、修正する旨提案され、審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

役員の出選に関する規程

(目的)

第1条 一般社団法人日本体力医学会定款第21条、第22条及び細則第5条の規程により役員の出選に関する規程を定める。

(理事・評議員会長・監事の出選)

第2条 細則第5条の規程により理事・評議員会長・監事の選挙を同時に行い、理事・評議員会長・監事を選出する。

- 2 選挙管理委員会は投票締切日を定め、評議員に対し少なくとも投票締切日の3週間前までに、被選挙有資格者名簿を、投票方法を明示した文書とともに発送する。
- 3 理事24名の出選は、無記名で医師免許保有者12名以内及び医師免許非保有者12名以内、各連記の投票による。
- 4 選挙管理委員会は、監事の陪席のもと、開票結果を確認し、医師免許保有者12名、医師免許非保有者12名の当選者を決定する。
- 5 評議員会長1名の名前を記入・投票する。なお、理事と評議員会長の兼職は可能である。
- 6 監事4名の名前を記入・投票する。理事・監事両職に選出された場合、両職は兼職できないため、当事者の意向を尊重し、順次次点者を繰り上げ当選させる。
- 7 理事・評議員会長・監事の選挙について、定数をまたがって同点のものが出た場合は、監事による抽選とする。
- 8 選挙結果は速やかに、当選者に知らせる。
- 9 理事・監事の選挙の当選者を、定款第22条第1項の規定に従い、選挙後開催される社員総会の決議により理事・監事に選任し、理事についてはその2年後の社員総会において再任の決議を行う。

10 次条第2項で選出された理事長候補者は、特に必要がある場合には、理事会の承認を得て、前項の社員総会に理事候補者1名を推薦できる。

第3条 理事長・副理事長・常務理事選挙を同時に行う。

- 2 理事に選出された24名を招集し、即日理事長1名、副理事長2名、常務理事1名を順次互選により選出する。なお、副理事長2名のうち、得票順に第1副理事長、第2副理事長とする。
- 3 選挙結果は速やかに社員に通知されなければならない。
- 4 理事長・副理事長・常務理事の選挙の当選者を、定款第22条第2項の規定に従い、理事の選任の行われる社員総会後に開催される理事

会の決議により理事長・副理事長・常務理事に選任し、2年後の社員総会後の理事会においてそれぞれに対し再任の決議を行う。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。
附 則

1. この規程は、平成30年8月24日より施行する。

11. その他（確井業務執行役）

北九州地方会（仮称）の設立について

(確井全国地方会実行委員会業務執行役、鈴木理事長)
資料に基づき、北九州地方会（仮称）の設立について報告がなされた。

北九州地方会（仮称）の設立について（福岡県、佐賀県、長崎県、大分県）、本学会評議員（熊谷秋三、近藤芳昭、田井村明博、松元義人）より福岡県、佐賀県、長崎県、大分県在住会員に設立趣意書が提出され、これを基に本学会理事長あてに設立承認依頼があったと報告され、審議の結果、承認された。設立の趣旨として、都市部を除く、地域における評議員や会員数の減少傾向が強く、年次学会大会が「原則として国民体育大会の開催地で行われる。」事が困難な状況になりつつあり、各都道府県を超えた近隣地域の集合体である地方会としての活動が必要不可欠となっていることが挙げられる。また、司法書士より、任意団体から一般社団法人になったことに付随してガバナンス（統一的な機能整備状況）の強化を図る必要があると助言があり、特に人や金の流れは重要であるので、地方会補助金20万円を支給する際、代表者、事務局長、所在地を明確にする必要があると報告され、審議の結果、北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国・四国、北九州（仮称）各地方会の代表者、事務局長、所在地の一覧が確認され承認された。学会ホームページの地方会のページの代表者や事務局長、所在地の記載がバラバラで統一感がなく分かりづらいので今後修正する旨、報告された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

・総務委員会（鈴木理事長）

第76回三重大会長の選考を行っている。

・編集委員会（後藤編集副委員長）

資料に基づき、委員会報告がなされた。

機関誌の発行と英文誌の特集号の掲載をしていく予定である。日本医学会において、特に編集業務においてプライバシーポリシーが必要となってくるため、作成した案（和文、英文版）について進めてよいか、審議され、編集委員会の判断にて進めていく旨、承認された。投稿に伴う利益相反に関する内容を第73回福井大会後に学会ホームページに掲載する予定である旨、報告された。

・渉外委員会（永富渉外委員長）

学会大会時に単位申請ができると大会参加者が増えると考えられる。スポーツ協会に打診をした所、スポーツドクターの資格（旧体協）は半年前に申請すれば可能であるとのことだったが、大会プログラ

ムが明確になっている必要があるので、来年の茨城大会以後、実行委員長等に相談しながら進めていく必要がある旨、報告された。

また、2018年9月開催されるFIMS学会大会に日本を代表する学会として、本学会から永富渉外委員長が学術交流を深めるため参加される旨ご報告された。

・FAOPS2019運営委員会

(和気FAOPS2019運営委員長)

資料に基づき、委員会報告がなされた。

- 1) 参加登録、一般演題登録、トラベルグラント申請の受け付け期間ならびに参加登録費について以下のように決定した。現在、参加登録(Early)、一般演題登録およびトラベルグラントの申請を受け付けている。

(1) 参加登録期間および登録費

8月1日-10月31日 Early 25,000円

(大学院生 15,000円, 学部生 10,000円)

11月1日-12月20日 Regular 30,000円

(大学院生 20,000円, 学部生 10,000円)

12月21日-2月28日 Late 35,000円

(大学院生 25,000円, 学部生 10,000円)

当日参加費 40,000円

(大学院生 30,000円, 学部生 15,000円)

(2) 一般演題登録期間

8月1日-10月2日(受付中)

(3) 外国人来日トラベルグラント申請期間

8月1日-10月2日

- 2) 公募シンポジウム(5月7日締め切り)に本学会に関連した研究テーマの申請が1件あり、採択された。タイトルおよび演者は以下の通りである。既に採択されている企画シンポジウムと併せて、体力医学会HP等による会員への周知と開催に向けた支援を行う予定である。

Theme: Genomics of Sports and Exercise(90min)

The main chair: Dr. Noriyuki Fuku

Speaker 1: Dr. Eri Miyamoto-Mikami

Speaker 2: Dr. Ola Hanson

Speaker 3: Dr. Hirofumi Zempo

- 3) 平昌五輪金メダリストの小平奈緒選手による講演の詳細が決定した。

日本生理学会・日本体力医学会共催特別企画

「世界の頂点を極めるスポーツ科学」

演者1: 小平奈緒(社会医療法人財団慈泉会相澤病院スポーツ障害予防治療センター)

2018年平昌オリンピック500m金, 1000m銀メダリスト(世界記録保持者)

演者2: 結城匡啓(信州大学教育学部教授, 日本スケート連盟ナショナルコーチ)

日時: 2019年3月30日 18:10-

場所: 神戸国際会議場(FAOPS2019 A会場)

- 4) 演題登録情報や小平選手に関する情報などを適宜学会HPにアップした。

- 5) 共催セミナー(軽食あり)について現在検討中である。協賛企業の募集も継続して行っている。

2. 第73回(福井)大会の進捗状況(鈴木理事長)

配布資料に基づき、以下の状況であることが報告された。

会期: 2018年9月7日(金)~9日(日)

会場: AOSSA, ハピリン

テーマ: しあわせ元気なふくいでつむぐ体力医学
~QOL維持・向上の運動効果~

1) 事前登録者数

学会員(一般) 640名

学会員(学生) 244名

非学会員(一般) 41名

非学会員(学生) 34名 計 959名

2) 演題数

口頭発表 319演題 (内1演題取り下げ)

ポスター 421演題

計740演題 (内1演題取り下げ)

3) 展示

企業展示 33社

書籍 2社

4) 広告

予稿集広告 12社/団体

HPバナー 1団体

5) ランチョンセミナー

4演題

3. 第74回(茨城)大会の進捗状況(鈴木理事長)

大会の準備状況等について順調に進められている旨、報告された。また、ポスター、チラシを配布できるように準備している旨、報告された。

会期: 2019年9月19日(木)~21日(土)

会場: つくば国際会議場

テーマ: 元気な人と社会をはぐくむスポーツ医学の挑戦

4. 第75回(鹿児島)大会の進捗状況(徳田大会長候補)

大会の準備状況等について報告された。

会期: 2020年9月24日(木)~26日(土)

会場: 鹿児島大学(共通教育センター, 稲盛会館)

5. その他(碓井業務執行役)

配布資料に基づき、以下のように報告された。

会員の一部より、地方会のことがよく分からないという声が上がっていると報告があり、本学会役員には地方会について理解を深めてもらいたいとのことで、地方会に関する概要が説明された。一般社団法人では、近年、ガバナンス(統一的な機能整備状況)の強化が求められているため、各種委員会が各種学会事業をサポート、総務委員会が年次学会大会をサポート、全国地方実行委員会が地方会事務局を通して地方会大会をサポートし、地方会は年次学会大会をサポートする形で相互に連携することが求められる旨、説明された。

第33回日本体力医学会近畿地方会 一般演題募集のご案内

■日時：平成31年2月23日(土) 9:55~16:30
(受付9:30)

■会場：立命館大学 びわこ・くさつキャンパス
ラルカディア101教室

■アクセス：JR南草津駅下車 近江鉄道バス約20分

■シンポジウム：

「健康運動指導士の育成～現場と育成大学の連携課題」
(13:15~14:30) 健康・体力づくり財団と共催
シンポジスト：黒瀬聖司(関西医大), 高力容子(近畿健康管理センター), 岡山修子(東大阪スタジアム), 前田 龍(健康科学研究所), 谷口有子(京都学園大学)

■一般演題募集：

体力・スポーツ医学に関する演題

抄録原稿はMS Wordで作成し, ①演題 ②演者(発表者に○印) ③所属, ④本文(目的, 方法, 結果, 考察の順で)を900字以内で記載して下さい。図表は認めません。

・今回の地方会では、ポスター発表と口頭発表を設けます。

・ポスター発表の中から若手を対象とした学術奨励賞を選考します。40歳未満の本学会に所属する会員で筆頭演者を対象とします。学術奨励賞の応募をご希望される方は、その旨を演題応募にあわせてお伝えください。

・発表形式(ポスターか口頭発表)の決定は、近畿地方会幹事会に一任させていただきますことをご了承ください。

※演者は共同演者を含め、会員・非会員に限らず、どなたでも発表できます。但し、『体力科学』への抄録掲載に関しては、筆頭演者が非会員の場合には掲載料として3,000円を学会当日に申し受けます。

■一般演題締め切り期日：2018年11月30日(金)

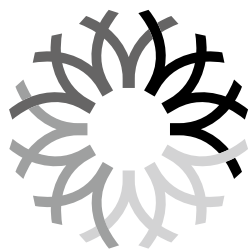
■送り先及び問い合わせ先：

立命館大学スポーツ健康科学部 田畑 泉

E-mail: tabatai@fc.ritsumei.ac.jp

TEL: 077-599-4125 (田畑研究室)

FAX: 077-599-4125



第30回 日本医学会総会

2019 中部

医学と医療の深化と広がり ～健康長寿社会の実現をめざして～

学術集会

2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝)

名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、ウインクあいち

学術展示

2019年4月26日(金)～4月29日(月・祝)

名古屋国際会議場、ポートメッセなごや

会頭

齋藤 英彦
名古屋大学名誉教授

副会頭

松尾 清一 名古屋大学総長
郡 健二郎 名古屋市立大学長
駒田 美弘 三重大学長
星長 清隆 藤田保健衛生大学長

柵木 充明 愛知県医師会長
森脇 久隆 岐阜大学長
今野 弘之 浜松医科大学長
佐藤 啓二 愛知医科大学長

準備
委員長

高橋 雅英 名古屋大学理事

分科会応援早割(事前参加登録)

2018年**10月31日(水)**正午まで

締切迫る!

参加登録区分 (区分は、登録時の身分とする)	分科会応援早割 2018年2月1日(木)正午～ 2018年10月31日(水)正午まで	事前参加登録 2018年2月1日(木)正午～ 2019年4月5日(金)正午まで	当日参加登録 2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝)
医師・歯科医師・研究者	25,000円	30,000円	35,000円

各種研修制度との連携

New

1. 日医かかりつけ医機能研修制度応用研修単位

日本医学会総会に出席することにより応用研修の「関連する他の研修会」として2単位が付与されます。

2. 産業医・健康スポーツ医研修単位

※早期からのご登録が可能です。

事前申込のみ(定員制・先着順) (別途5,000円)

公式WEBにて
随時更新中

3. 日本医学会分科会(一部)の研修単位

分科会の認定する専門医制度等について、分科会規定に基づき単位取得が可能です。

4. 日本医師会生涯教育制度学習単位

受講内容に応じて日本医師会生涯教育制度の単位およびカリキュラムコードの取得が可能です。

事前参加登録完了後に産業医セッション受講申込専用サイトをご案内します



事前参加登録はこちらから ▶ <http://isoukai2019.jp/>

同時期開催

第116回日本内科学会総会・講演会

テーマ:新時代の内科学の創造 ～分化と統合、そして融合へ～

会長 **長谷川 好規** 名古屋大学大学院医学系研究科
病態内科学講座 呼吸器内科学 教授

2019年
4月26日(金)～4月28日(日)
ポートメッセなごや

「第30回日本医学会総会 2019 中部」参加により総合内科専門医認定更新単位：10単位、認定内科医認定更新単位：5単位が取得可能です。

主催:日本医学会

■主務機関:名古屋大学医学部、名古屋市立大学医学部、藤田保健衛生大学医学部、愛知医科大学、岐阜大学医学部、三重大学医学部、浜松医科大学、金沢大学医学部、金沢医科大学、福井大学医学部、富山大学医学部、信州大学医学部、愛知県医師会、岐阜県医師会、三重県医師会、静岡県医師会、石川県医師会、福井県医師会、富山県医師会、長野県医師会
■後援:日本医師会、日本学術会議、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、石川県、福井県、富山県、長野県、名古屋市、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、(一社)中部経済連合会、名古屋商工会議所、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、中日新聞社、NHK、CBCテレビ、東海テレビ放送株式会社、メーテレ、中京テレビ放送株式会社、テレビ愛知株式会社

日本女子体育大学附属基礎体力研究所 第29回公開研究フォーラム 「スポーツ科学研究がつくる新しい価値」

日 時：平成30年12月1日(土) 13:00~16:05

場 所：日本女子体育大学本館1階 E101教室

参加費：無 料

お問い合わせ先：

E-mail: kisotai@jwcpe.ac.jp

TEL: 03-3300-6172, 03-3300-6175

URL: <http://www.jwcpe.ac.jp/research/>

プログラム

●13:05~13:55 セッションⅠ <基調講演>

「骨格筋研究が見出すスポーツ科学の新たな価値」

藤井宣晴 (首都大学東京人間健康科学研究科・教授)

●13:55~14:25 セッションⅡ

基礎体力研究所の成果&コーヒープレイク

「筋グリコーゲンの評価法とその応用」

大澤拓也 (日本女子体育大学)

「乳幼児期における心臓の発達」

森山真由美 (日本女子体育大学)

「荷重超音波法による筋硬度の計測」

手島貴範 (日本女子体育大学)

●14:25~15:15 セッションⅢ

「トップアスリートから学ぶ、最新トレーニング法と美しい肉体づくり」

岡田 隆 (日本体育大学体育学部・准教授)

●15:15~16:05 セッションⅣ

「座りすぎ日本人は、20年後どうなる？」

岡 浩一郎 (早稲田大学スポーツ科学学術院・教授)

●16:05 閉会

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団 2019年度研究助成の公募について

1. 助成の対象

<一般公募研究>

単年度 (2019年4月1日~2020年3月31日)

- ・医学分野：塩類の生理作用，健康に及ぼす影響に関する研究
- ・食品科学分野：食品の加工・調理・保存及び食品栄養における塩類の役割に関する研究

2. 募集件数および研究助成金額

<一般公募研究>

- ・医学分野：15件程度
- ・食品科学分野：15件程度
- ・研究助成金額：1件当たり120万円以下

3. 応募資格：日本国内の大学，公的研究機関等で研究に携わる人（学生・研究生等を除きます）。

若手研究者の積極的な応募を期待。

4. 応募方法：財団のウェブサイトから2019年度研究助成応募要領 (Microsoft Word) をダウンロードし，応募要領に基づいて所定の書式に記入のうえ，書面により提出。

5. 応募期間：2018年11月1日~2018年12月10日まで（締切日財団必着）

6. 提出先：公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団
〒106-0032 東京都港区六本木7-15-14 塩業ビル3階
電話：03-3497-5711

URL: <http://www.saltscience.or.jp>

7. 選考結果の通知：財団の研究運営審議会による審査・選考等を経て，3月に応募者へ書面で通知。

第41回(2019年度) 公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術研究募集

主催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団
THE DESCENTE AND ISHIMOTO MEMORIAL FOUNDATION FOR THE PROMOTION OF SPORTS SCIENCE

応募資格：

- ① 体育学、健康科学、人間工学、被服科学、運動施設工学等健康の増進と体力の向上に関わる学術、およびその他スポーツ振興に寄与する学術研究に関する講座を持った大学、およびこれに準ずる研究機関に所属する個人またはグループ。
- ② 高校生から幼児までの教育機関に奉職しており、①に前述した分野で研究または調査活動を積極的に行っている個人またはグループ。
この場合、運動生理学的研究でなくとも、あくまで教育現場に於ける身近なテーマで、すぐにも役立つ研究テーマを求めている。
但し、研究報告等に不慣れた人は、報告書作成に習熟した人を共同研究者に加えて申請のこと。

学術研究テーマ：

第一部 課題学術研究

本年度テーマ

- ① 「暑熱環境下における快適性を実現する手法に関する研究」
年々過酷さを増す夏の環境下において、スポーツウェア、用品の暑熱環境下における暑さ対策は一層重要になっています。スポーツウェア、用品における暑熱環境下での快適性を実現できる幅広い視点からの提言を頂きたい。
- ② 「衣服内環境を快適にする湿度をコントロールする手法に関する研究」
近年、衣服内の快適性に関して、湿度の影響が注目されていますが、衣服内の湿度分布の探求や素材の吸放湿性、吸汗速乾性などと快適性との関連性が十分には解明されていません。快適性を実現する衣服内湿度の理論とそれを実現する手法に関する提言を頂きたい。
- ③ 「運動後のリカバリーに有効なクールダウンを実現する手法に関する研究」
運動後のリカバリーはトップアスリートから一般の愛好家まで、スポーツの楽しみを継続するうえで非常に重要です。運動後の疲労回復や運動パフォーマンスの維持向上のための「運動後のリカバリーに有効なクールダウン手法」について提言を頂きたい。
- ④ 「運動時におけるウェアに関するシミュレーションシステムの構築」(衣服圧、エアロダイナミクス、衣服内温湿度分布など)
スポーツウェア、用具の開発は実際の人の運動を物理的あるいは生理的に評価し進めることが多いが、開発の精度を高めていくために、あるいは効率化していくために、シミュレーション技術を利用す

ることが不可欠です。スポーツ時の身体周りの流体シミュレーション(流水抵抗、空気抵抗)や衣服内の温湿度分布シミュレーション、衣服圧シミュレーション等、スポーツウェアの開発に有効なシミュレーション技術の構築について提言を頂きたい。

第二部 自由課題学術研究

本財団の主旨に添ったものであり、申請者がこれまで行って来た研究を助成することによって、調査・研究の発展・充実が期待されるものであること。

応募方法：

本年度の公募締切日は2018年11月9日です。

応募者は、所定の申請用紙に研究テーマ、第一部・第二部の区分、目的、内容および期待される成果等を簡潔に書き、2018年11月9日(当日消印有効)までに書面にて下記宛提出すること。
(申請書は所定用紙または当財団ホームページより、B4サイズにてダウンロードしたものとする。但し所定用紙をコピーし使用する場合は、第41回申請書をコピーのこと、自作による作表および前回までの用紙は使用しないこと)

応募書類 送付先・資料の請求および問い合わせ：

〒567-0086 大阪府茨木市彩都やまぶき2-3-2

(株)デサント R&D センター内

公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団 編集局

TEL 072-649-0910 FAX 072-649-0920

ホームページアドレス <http://www.descente.co.jp/ishimoto/>

E mail zaidan@descente.co.jp

助成者の入選内定通知：

研究助成の対象として採択された研究者に対し、当財団より書面にて本人宛通知する。(2019年3月下旬の予定)なお、入選されなかった方には、4月上旬までに本人宛通知する。

助成金の交付：

第一部「課題学術研究」

1件 100万～300万(研究期間2～3年、件数2～3件)

第二部「自由課題学術研究」

最優秀入選100万円、優秀入選50万円 30件を予定

受賞者は、2019年6月に正式発表し、助成金は、7月31日までに交付する。なお、研究助成は個人またはグループを対象とし、所属機関の間接経費、一般管理費は助成の対象にしない。

報告書の提出：

選考の結果、助成金の交付を受けた者は、所定の様式で原稿用紙550字詰22枚前後(図表類を含む)の研究成果報告書を下記期日までに当財団に提出すること。

第一部 研究期間により別途設定

第二部 2019年10月31日

また、同時に研究助成金使途報告書を提出すること。

詳細は入選者に別途通知する。

平成31年度健康・体力づくり事業財団 健康運動指導研究助成募集要項

<目的>

超高齢社会を迎え健康寿命の延伸をめざす我が国において、運動やスポーツの価値に関心が集まり、質の高い運動指導が求められています。本研究助成は、健康運動指導士、健康運動実践指導者の自由な発想に基づく運動指導における実践研究や、地域・職域における健康・体力づくり、課題解決のための調査研究を支援することにより、運動指導の充実・強化とともに運動指導者の資質向上を図り、もって国民の健康・体力づくりに寄与することを目的とします。

<研究区分>

(1) 実践研究 (30～50万円／15件以内)

運動指導活動における検証や、課題解決のための研究です。

- 運動指導における実践研究
- 運動指導に関する課題解決のための研究
- 運動指導にかかわる人材育成に関する研究

【評価の視点】(予定)

- ①健康運動指導者の価値向上や人材活用が期待できる。
- ②実践現場で活用できる具体的な成果(運動プログラム、ツール、ガイド等)が期待できる。

(2) 調査研究 (100万円／5件以内)

我が国の健康・体力づくりに貢献できる、地域・職域における健康・体力づくり推進のための研究です。

- 地域における健康・体力づくりを推進する研究
- 職域における健康・体力づくりを推進する研究

【評価の視点】(予定)

- ①健康運動指導者の価値向上や人材活用が期待できる。
- ②複数団体(大学・研究所、医療機関、健康増進施設、自治体、民間企業等)による共同研究として実施される。
- ③地域や健康増進施設等における事業や施策に活かせる。

注)【評価の視点】は、研究公募にあたり、期待される研究の特徴を示すものですが、これらの特徴を満たさないと研究が採択されないといった必須条件ではありません。

<助成金総額> 800万円

注) 応募状況により「実践」「調査」の配分金額は変わります。

<平成31年度募集スケジュール>

平成30年10月上旬

ホームページ上に要項・申請用紙掲載

平成30年12月10日～平成31年1月10日

申請期間

平成31年4月1日

採否決定(研究期間 5月1日～翌3月31日)

平成31年5月17日

平成30年度研究報告会・平成31年度研究助成金贈呈式

注) 9月18日現在の情報です。正式な要項等はHPで再度ご確認ください。

<http://www.health-net.or.jp/tyousa/josei/index.html>

編 集 後 記

今年の夏は、日最高気温が35℃以上の「猛暑日」を通り越して、40℃以上の日もありました。40℃以上の日は何と呼べばいいのでしょうか。個人的には「熱波日」がいいのではと思います。ちなみに「猛暑日」と並んでよく耳にする「酷暑日」は、一度、気象用語として検討されたことはあるようですが、否定的な意味合いもあるので正式な気象用語とはなりません。そして、例年より梅雨明けが早かったこともあり、熱中症での救急搬送者が8月19日現在、8万人（速報値）を超えており、過去最高になるようです。熱中症予防もまた、体力医学の重要なテーマです。ただこの原稿は、秋風と共に（台風の可能性もありますが）皆さまにお届けしていることでしょう。

さて、本特集号第67巻5号（2018）では、総説6編とJPFSM, Vol. 7, No. 5（2018）の抄録としてRegular Article 5編、Short Communication 1編を収載しております。特集のエネルギー代謝をテーマとした総説は必見です。いずれも大変興味深い内容ですので、ぜひ熟読ください。とりわけ、「褐色脂肪組織」については、最近のトピックスです。これまで、成人には存在しないと考えられていた褐色脂肪組織は、高齢になっても残っていることが確認されました。そして、褐色脂肪組織が多いと代謝面で様々なメリットがあり、肥満予防にも関係すると

考えられるようになりました。寒冷刺激またはそのメカニズムを利用すれば、その褐色脂肪組織を増やすこともできる希望も出てきました。今の暑さを考えれば、寒冷刺激は魅力的でさえあります。

体力医学分野においては、通常、体を動かし、エネルギー消費を増やすことを前提とした予防医学、健康増進、リハビリテーション医学を考えがちです。しかし、体を動かすことの恩恵に預かれない人たちの健康も考える時期に来ているように思います。その意味において、褐色脂肪組織に注目することは健康に対する選択肢を広げます。つまり、褐色脂肪が十分にあれば、もしくは増やせれば、1日に数十キロカロリー余分に消費できる可能性があるようです。1日にすれば些細なカロリーですが、1年では脂肪2kg以上の消費の可能性があります。ただ、あくまで、生活習慣を厳密に守った上のことで、裏返せば、いかに日々の生活習慣が重要かも分かります。

このように、体力医学は、一面では日常生活に即した実学です。ただ、本質を追求する基礎科学の研究もその実学を支える屋台骨ですので、どちらも大事にしながら、研究を進めていきたいものです。

浜岡隆文

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.67, No.5

体 力 科 学 第 67 巻 第 5 号

平成30年9月25日 印刷

平成30年10月1日 発行

編集兼発行者
発行所

田中喜代次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編集事務局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印刷所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社